

主な外部表彰

2021年度表彰の紹介

「昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター」がBCS賞を受賞

フジタ・末宗組JVが施工した「昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター」(大分県大分市)が、日本建設業連合会第62回BCS賞を受賞しました。本施設は自然公園の山上に佇む県民念願の屋内スポーツ拠点と防災拠点を兼ね備えた施設です。大分県産の一般製材によるアーチ状トラス屋根架構が、シャープなフォルムと武道精神につながる静・動併せもつ空間性を有し、風・緑・光を体感する競技空間の魅力を発信しているとして評価されました。



大分県産のスギを使用したダイナミックな大屋根の架構が印象的

当社の施工物件3件が「ウッドデザイン賞2021」を受賞

ウッドデザイン賞は、「木のある豊かな暮らし」の普及・発展と国産材の需要拡大による適正な森林整備を目指し、木の良さや価値を再発見させる製品や取り組みについて特に優れたものを消費者目線で評価する顕彰制度です。第7回の開催となる今回、当社施工の「大和ハウスグループ 未来価値共創センター」(奈良県奈良市)、「小田急参宮橋駅」(東京都渋谷区)、「石岡市庁舎」(茨城県石岡市)の3件がソーシャルデザイン部門 建築・空間分野で受賞しました。



大和ハウスグループ
未来価値共創センター



小田急参宮橋駅



石岡市庁舎

「ジオタワー南森町」が環境配慮物件として2件の賞を受賞

2021年に当社が設計施工した「ジオタワー南森町」(大阪府大阪市)は、建物の四方を開放された歩道と緑地帯で囲い、地域とのつながりを意識した新たな景観を創出しています。そのほか、省エネ性能の高い設備機器の標準設置や、全居室の窓に高い遮熱・断熱効果を持つLOW-E 複層ガラスを採用し冷暖房負荷を軽減するなど、さまざまな環境配慮を行なっています。これらの取り組みが高く評価され、令和3年度おおさか環境にやさしい建築賞の住宅部門賞と、令和3年度おおさか気候変動対策賞特別賞を受賞しました。

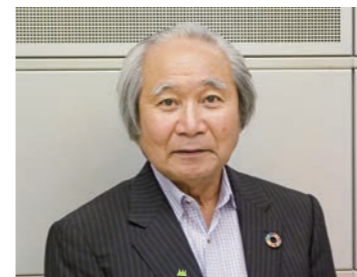


グリーンプロムナードを有する建物

その他の受賞

受賞	表彰対象
木材利用推進中央協議会 木材利用優良施設コンクール優秀賞	昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター(大分県大分市)
一般社団法人日本構造物診断技術協会 第33回技術・研究発表会 第17回野尻賞	「鉄道営業線橋梁における既設盛土一体化橋梁工法による耐震補強工事報告」 交通事業部 土木工部 江原季映
一般社団法人鉄道建築協会 鉄道建築協会賞 作品部門 入賞	小田急小田原線 代々木八幡駅(東京都渋谷区)
令和2年度 廃棄物資源循環学会賞 論文賞	「清掃工場の排ガス・回収CO ₂ を用いて促進炭酸化処理を施した焼却主灰の溶出および力学特性」 技術センター 環境研究部 繁泉恒河、久保田 洋、高地春菜

第三者意見



後藤 敏彦

特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム代表理事

(一社)グローバルコンパクトネットワーク・ジャパン理事、NPO法人日本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、(一社)環境パートナーシップ会議理事、(一社)グリーンファイナンス推進機構理事、レジリエンスジャパン推進協議会理事、認定NPO法人環境経営学会特別顧問、など。環境省等の各種検討会の委員長/委員などを歴任。東京大学法学部卒

この1年で情報開示の世界は大きく動き、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に基づく情報開示の主流化がデ・ファクト(標準)となりましたが、2つの大きな流れになったと判断しています。この2つは相互協力の覚書があるように対立ではなく主として目的、対象の違いです。

1つは国際サステナビリティ基準審議会(ISSB/国際会計基準を所管するIFRS財団が2021年11月に設立)が進める狭義のTCFDで、主として金融向けの情報開示です。G20も支持し、いずれ財務報告の基準になっていくものと推察しています。

もう1つはGRI(Global Reporting Initiative)が進める広義のTCFDで、企業の発展戦略を求めており、ステークホルダーとのエンゲージメント(意見反映プロセス)が欠かせません。金融以外も含むマルチのステークホルダーとのダイアログ(対話)などのベースとなるものであり、この点がISSBとGRIが覚書を交わした背景でもあります。

欧州は広義のTCFDを法規制により進めようとしており、連結はもとよりバリューチェーン全体での取り組みが求められます。

貴社の場合は巨大な上場企業の連結会社で非上場ですが、自社自体が大企業でありしかも海外事業ではグループで重要な役割を担っておられます。特に海外のマルチのステークホルダーに対してはダイアログの実施如何に関わらず、いつでも対応できるように開示しておくことの重要性が高まってきていると考えます。英語版の充実も必要と考えます。

今年の報告書は読みごたえは増しており評価しますが、以上の観点も含めいくつか述べさせていただきます。

第三者意見を受けて

後藤様、昨年に引き続き本レポートへの貴重なご意見を賜り、御礼を申し上げます。

情報開示における世界的な潮流についての的確な解説と助言は、時代に即して当社の情報開示を見直し続けていくうえで、貴重な機会であると捉えております。今年度のレポートに関しても昨年度の第三者意見でいただいたご指摘をふまえ、意識的に掲載内容を見直ししており、一定の評価を頂戴したことは我々にとって非常に励みになるものです。

今年度より、新たな中期経営計画の策定にともない重要課題を体系的に再定義し、目標管理などマネジメントに展開しております。これはシナリオ分析の外部レビューでの意見も反映したものです。また、TCFDの期待する移行計画についても、該

環境権は人権という考えが世界的に浸透してきており、人権・人財取組も環境経営の重要な要素で、デュー・デリジェンスが必須になりつつあります。ベースとして益々「高」環境づくりの推進が生きてくると思われまます。

新中期経営計画、特に3つの柱の実行が、理念やビジョンの実現にしっかり結びついているのかを、もっと明確に示されるとストーリー性が増します。フジタマネジメントシステムは経営統合システムと言ってもよく、Planの基となる各方針の更なる上位概念である理念・ビジョンとの結びつけを可視化し、Proactiveに実現され、企業価値向上に寄与することを期待します。

価値創造について「SDGsに配慮した提案」を掲げておられ適切と考えます。SDGsが社会課題そのものであり社会の変革を追求するものであるという本質をおさえておられますが、すべての社員がこのことを認識し、あらゆる提案にこのことが配慮されていることが担保されていることを期待します。

データ類の範囲に関して、できるかぎり海外も含め連結が望ましいですが、必ずしも明確ではありません。それぞれのデータのカバー範囲は可能な限り明示すべきと考えます。シナリオ分析は、プライム市場の各社が苦慮していることを実効的に実施され開示されており日本企業の見本の一つになると思います。TCFDの期待する移行計画にも結実することを期待します。

最後に、アンケートや外部レビューなどを実施されており評価できますが、結果の公表および対応等についても開示されることを期待したい。

当する環境目標・施策に対して長期的な計画を策定し、運用を進めております。

その反面で改善すべき課題もご指摘いただきました。開示するデータの対象範囲の明確化や海外ステークホルダーとのコミュニケーションを含め、改善を図ってまいります。また、本レポートでは当社独自の取り組みにフォーカスしている側面がありますが、人権などグループ全体で取り組んでいるテーマについても読者にご理解いただけるように構成上の工夫を検討してまいります。

今後もステークホルダーの皆さまからの声を具体的な企業活動につなげることで、時代や環境の変化によりニーズが変わっても、社会に必要とされる会社であり続ける所存です。

常務執行役員 管理本部長 高山浩一郎